

令和5年度 道徳部会研究計画

1 研究主題

自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きる子供を育てる道徳教育

2 研究主題の主旨

(1) 研究主題設定の背景

時代の変化や子供たちの状況、社会の要請等を踏まえ、学校教育では、これまでの実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが求められている。予測困難な時代であり、ますます先行き不透明となる中、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言える。

道徳教育においても、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、多様な他者と協働する中で、悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められている。さらには、様々な問題に対応できる資質・能力を育むためには、「自分ならどうするか」を真正面から問い、自分自身のこととして、多面的・多角的に考え、議論していく「考え、議論する道徳」を実現していかなければならない。

令和5年度に開催される、徳島県小学校道徳教育研究大会会場校の徳島市国府小学校においては、『自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きる子供を育てる道徳教育』、副主題を『主体的に考え、伝え合い、響き合う授業づくり』と掲げ、その実現に向けて研究を進めている。特に、道徳科の授業ではどのように指導に当たるのかを教職員で共有し、他の人の複数の考えを踏まえた上で、自分の考えをもって判断し、学びを深め合う子供の育成を目指して取り組んでいる。また、タブレットの活用、話し方ナビ・聞き方ナビの活用、子供同士の自由な意見交流等、様々な工夫をしながら授業実践を展開している。

以上のことから、本年度は昨年度の成果を生かすとともに、社会の変化に対応し、その形成者としてよりよく生きていくことができる子供を育成する道徳教育を目指し、「自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きる子供を育てる道徳教育」を研究主題として掲げる。

(2) 研究主題について

AI技術が高度に発達する Society5.0 の到来を控え、急激に変化する時代の中で学校は様々な課題を抱えている。社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど

劇的に変わる状況では、子供一人一人が将来に対する夢や希望をもち、自らの人生や未来を拓いていく力を育むことが重要である。特に、人格の基盤を形成する小学校段階では、子供自らが自己を見つめ、自己の生き方を考えることができるようにすることが大切である。

道徳教育においては、多様な価値観の存在を認識しつつ、道徳的価値に対して子供が抱いている価値観そのものを子供自身が再構築していく学びの実現が求められる。また、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考えることで、自己の中に形成された道徳的価値観を基盤として自己の生き方について考えを深め、子供自らが内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく学びが大切である。子供が今ある自分を見つめ直し、これからあろうとする自分を見出していく自己形成の場は、道徳科を要とし、教科等や日常生活全体にわたって展開されることが望ましい。例えば、日常生活においても、人から言われるからといった理由や周りのみんながしているからといった理由ではなく、自らの判断により適切な行為を選択し、実践するなど、道徳教育の指導内容が子供の日常生活に生かされるようにしたい。

また、道徳科の授業においては、次のような学びを実現したい。一つは、子供が自己の生き方について考え、これまでの自分の生き方はどうであったか振り返ったり、これからの生き方の課題を考えたりする。そして、道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、他者の多様な感じ方や考え方に触れる中で、何がよいことなのか、何がいけないことなのか、人間としてどんな生き方がよいのかを真剣に考える。一つは、これまでの自分自身の体験などを想起しながら、広い視野で自分も相手も含めて人間をいかに理解するかという中で自己を見つめ、自分の思考や行動を客観的に把握しながら、自己の生き方についてより考えを深めていくような子供の学びを実現したい。そのためには、答えが複数ある道徳的な問題を、様々な考えをもつ仲間とともに探求し、価値や生き方に対する「見方・考え方」を深めながら、自らの生き方を展望できるような、多様な学習活動、自分自身のよさや可能性を自覚させ、目指す生き方に近づけるような指導を心がけたい。子供が主体的に学習に取り組むことができるよう、子供たちの多様な実態や発達段階に即した柔軟な指導方法を工夫し、子供自らが道徳的価値に向き合い、自らの将来に進んで生かそうとする姿勢をもてるような学習にしていきたい。

子供はみんな、よりよく生きようとする思いをもっている。こちらが価値観を押し付けたり指示したりしなくても、自らの価値観を高め、それを基に、自ら行動できる力をもっている。その「よりよく生きたい」という思いを表面化し、自らの可能性に挑戦していく主体性のある子供を育てる道徳教育を進めていくことが重要である。様々な人々や事物・事象と出会い、豊かな関わりの中で多様な価値観に接し、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどうのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深めることを通して主体的に自らの生き方を育てていくことが「よりよく生きる子供」を育てることにつながると考える。教師と子供の関わり合いや子供同士の関わり

合い、地域社会での体験活動など、人間同士のリアルな関係づくり、リアルな体験を通じて学ぶことの意義が大きくなっていることに留意したい。

3 研究内容

① 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の推進

自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きる子供を育てる道德教育は、道德科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として、あらゆる教育活動を通じて、適切に行われることで実現できると考える。また、学校の道德教育の目標を達成させるという意味から、指導に際しては、学校としての方針の下に道德教育推進教師が中心となって、全教職員が協力し合う指導体制を充実し、学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならないだろう。

そこで、本研究においては、全教職員が協働し、各教育活動での道德教育をその特質に応じて意図的、計画的に推進できるような指導計画の工夫、及び全教職員が協力し合う指導体制を整え、充実させる方策を明らかにする。

例えば、

- ・校長の方針のもと、全教職員が協力し合う指導体制の工夫
- ・道德教育推進教師を中心とした協働的な校内研修の工夫
- ・実効性のある諸計画（全体計画・全体計画別葉・年間指導計画など）の作成、活用、振り返りの工夫
- ・道德科を要とした総合単元的な道德学習の構想の工夫 など

② 道德科の授業における指導の工夫と評価の工夫

自己の生き方についての考えを深めるためには、子供が道德的価値の理解を基に、「自己を見つめ」「多面的・多角的に」考える学習活動において、「道德的諸価値についての理解」と「自己の生き方についての考え」を、相互に関連付けることができるようにする必要がある。そして、このような学習を展開する道德科の授業における子供の学習状況や道德性に係る成長の様子を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ますことが、よりよく生きる子供を育てることに繋がると考える。

そこで、本研究においては、道德的価値を自分との関わりで捉え、自己の生き方についての考えを深めることができるような効果的な学習指導過程や指導方法の工夫、及び子供の学習状況や道德性に係る成長の様子を捉え、個々の子供の成長を促す評価の視点・観点や方法を明らかにする。

例えば、

- ・他者と対話したり協働したりして多面的・多角的に考えることのできる指導の工夫
- ・質の高い多様な指導方法の工夫
- ・情報モラルや現代的な課題に関する指導の工夫

- ・ I C Tを活用した指導の工夫
- ・ 評価を指導の改善に生かす工夫
- ・ 子供が自己の成長を実感できる自己評価の工夫 など

③ 各教科等，家庭や地域社会との関連を図る道徳科の授業の工夫

子供がよりよい生き方を求めて道徳学習を自ら発展させていくためには，道徳科を要として，道徳的課題に対して，日常生活や関連する様々な教育活動，さらに家庭や地域社会と連携する必要がある。特に，各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき，学習の時期を考慮したり，相互に関連を図ったりして指導を進めると，それぞれの指導の効果を一層高めることができると思う。

そこで，本研究においては，柔軟な発想をもって各教科等と関連をもたせた学習指導構想の工夫，及び家庭や地域社会との連携強化を図った指導の工夫を明らかにする。

例えば，

- ・ 各教科等における道徳性の育成に資する学習と，それらを道徳科に生かす工夫
- ・ 実践活動や体験活動の重視と，それらを道徳科の授業に生かす工夫
- ・ 学校と家庭や地域社会の相互連携の充実と，それらを道徳科の授業に生かす工夫
など